群馬県立藤岡中央高等学校【定時制】　学校評価一覧表　（令和５年度版）

（別紙様式）

羅針盤			方策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 「総合的な探究（学習）の時間」に、主体的に取り組んだと自己評価する生徒が７０％以上いる。	・生徒の興味・関心・能力に応じて自主的に取り組めるよう複数のコースを用意し、支援、助言を行う。	A	B	A	○各自のテーマが適切か判断しながら、探究活動ができるよう具体的な方法を指導した。次年度についても、生徒が更に主体的に探究を進められるよう、興味・関心を引き出す工夫を模索していく。	○授業を核として学校づくりに努めている。 ○評価項目３　「授業に前向きに取り組むようになったと認識している生徒が８０％以上いる」について、外部評価Cが気になる。原因を探り、ぜひ改善していただきたい（難しい生徒を指導していることと拝察します）。 ○SNSを介した問題行動については解決策を模索しながら指導をしていても、一部の生徒、保護者には伝わらないこともある。警察等の関係機関への相談や通報の線引きを明確にして、周知する必要もある。 ○教師の自己評価が高く、生徒や保護者との評価とギャップがあることは否めない。学校の経営方針や教師の熱意、指導が十分に理解されないところもあるかと思われる。学校は地域や保護者と協働してよりよい教育を実現すべきである。と同時に、学校は託児所のようなサービス業ではなく、信念を持って人を育む場所であることに自信をもって頑張って欲しい。 ○定時制の生徒が４年間で夢や目標を持って過ごしていることは大変素晴らしいと思った。何か１つのものを共に作り上げることは何よりも大切なことだと思う。そこで生徒も１つになり、そして、さらに新たなことにも挑戦していくことにつながると思う。
		② 生徒の主体的な学習活動を促すため、授業で言語活動や学び合いを計画的に実施する教員が８０％以上いる。	・自己表現が苦手な生徒が多いので、教科毎に様々な工夫しを施して言語活動を取り入れ、授業アンケートによってその効果を検証する。	B	A	A	○定時制における生徒の特性もあり、生徒同士が学び合う環境を全ての学年で作り出すことに難しさがあるが、教員を含めた話し合いや学び合いについて、可能な範囲で学び合いの形を追求しようとした。来年度も継続していく。	
	2 生徒にとって魅力ある学習環境が整備されていますか。	③ 自分の学校が好きだと感じている生徒が７０％以上いる。	・授業や学校行事、部活動を活性化し、個々の生徒の実態に応じて、学校生活や進路などについてきめ細かに支援する。	A	B	A	○きめ細かな指導を行い、生徒一人ひとりに目が行き届くようにした。また、生徒が学年を超えてコミュニケーションを行えるよう、学校行事や部活動を支援した。今後も生徒個々の特性を理解した上で、一人ひとりが本校で学ぶことに安心感と充足感を持てるよう、様々な場面で支援を行っていく。	
	3 生徒の教育再生の場として、学習姿勢のあり方を指導するとともに、社会性を育んでいきたい。	④ 継続して登校できるようになり、授業に前向きに取り組むようになったと認識している生徒が８０％以上いる。	・不登校等で学習機会に恵まれなかった生徒に、登校しやすい環境づくりを心掛け、基礎学力や社会性を、４年間かけて養うことで、自ら考え、前向きに生きる姿勢を身につけさせる。	A	C	B	○登校しやすい環境、個に応じた指導を心がけた。また、教育相談体制を整えて、問題を抱えたときに、気軽に教員に相談しやすい環境を構築した。今後も教育相談的な対応も重視しながら、居心地の良い環境を心掛けていく。	
	4 対外的な行事等に積極的に参加するよう支援していますか。	⑤ 部活動の大会や地区体育大会、各種検定等に積極的に参加している生徒が６０％以上いる。	・各部活動の日常活動を支援し、対外的な大会に積極的に参加するように生徒を励ます。 ・英語検定、漢字検定、ビジネス文書検定、情報処理検定等を受検する機会を設ける。	B	B	B	○対外的な行事への参加をさらに促し、社会性を身に付ける重要性を理解させる。また、授業での指導を通して、様々な資格試験等の受検を積極的に呼びかけた。部活動については、加入率が低いので、まずは部員を増やし下級生を中心に恒常的な活動を促していく。検定試験についても教科指導の中でも多くの生徒に受験を呼びかけていく。西毛大会出席率R4：59%　R5：68%	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	5 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑥ 生徒の実態を踏まえて、習熟度に応じた指導を実施し、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が７０％以上いる。	・生徒の習熟度や諸事情に応じた個別的な指導を心掛け、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を図る。 ・漢字・計算ドリル等の補助教材を作成して、反復・継続的指導を行う。	A	B	A	○生徒個々の特性に配慮した、補習を含む個別指導・対話的学習などを積極的に行った。近年学力差がより大きくなってきたことを踏まえ、上位者、下位者それぞれに個別の指導を可能な範囲で今まで通り進めていく。下位者については従来より早期から取り組ませたり、学習障害が疑われる場合には通級などの利用も促したりすることなど、更にきめ細かな対応をしていく。	
	6 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦ 　漢字テストを１年間に６回実施し、正解率７割以上の生徒が６０％以上いる。	・国語及びＬＨＲ活動の時間を使い、全学年で社会人に必要な漢字の習得に取り組む。	B		B	○昨年に比べ、学校での人間関係のトラブルも減少し、学習全体への影響も少なくなり、漢字テストへの取り組み状況も改善した。様々な教科での活動を通じて漢字習得の重要性に気づかせ、更に多くの生徒が積極的に学習に取り組むように促していく。 正解率７割以上 R4：47%、R5：61%	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ 適切な指導が行えるように、毎日の打合せや休み時間等に、生徒に関する情報交換を行い職員間の連携を図る。	・生徒指導上の重要な情報は、その都度全職員が共有する。 ・生徒のよい変化を特に注視し、職員で情報を共有し、その他の場面でもいかせるよう支援する。	A		A	○生徒の状況をよく観察し、定期的に情報共有会議を開催して、生徒の様々な問題を一人で抱えず、全職員の共通認識の元で組織的に指導に当たるようにした。今後も、SCや養護教諭（非常勤）とも情報共有を綿密にし、より多方面から生徒を支えられるよう工夫していく。	
	8 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑨ いじめの未然防止、早期発見及び早期対処に努め、解消率が100%である。	・ＳＨＲや授業、部活動等あらゆる機会において生徒の様子を観察し、話の中からいじめの兆候をつかみ、対処する。	A	C	C	○授業中の生徒のやりとりなども含めて学校生活を細かく観察し、気になる言動があれば、職員間で情報共有してきめ細やかな指導を行った。今後についてもSNS上や教員から見えない部分でいじめが発生することもあるので、生徒がいつでも相談しやすい関係性を構築したり、外部機関も積極的に紹介したりする。	
	9 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑩ 出席状況良好の者の数が８０％以上である。	・個々の事情を理解し、個人それぞれにあった1日の過ごし方について一緒に考えていく。 ・家庭との連携を密にし、家庭においても指導をしてもらう。	D		D	○欠席等の場合、家庭と必ず連絡を取り、特に生活習慣や健康管理についての情報を共有した。学校への継続意欲が薄れる特定の生徒の欠席数が増え、全体の欠席数がかさんでしまった。クラスの人間関係を良好にし、登校しやすい雰囲気をつくるとともに、個々の悩みの早期解決に向けて支援する。 出席良好　R4：53%　R5：66%	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。	⑪ 上級学年の生徒を中心に、進路を考える機会を年３回以上設ける。	・上級学年を中心に、進路に関する生徒個別面談を実施する。 ・進路に関する最新情報を入手し、提供できるようにしておく。 ・外部講師等による、進学や就職についての講演を実施する。	A		A	○進路講演会、学校説明会（進路ガイダンス）の開催時期や内容を見直すことで、生徒のニーズに合わせることができた。個々の進路希望に合わせて、ハローワークや大学、専門学校に積極的に訪問したり、進路講演会に参加したりして、最新情報を得るよう促した。次年度も継続していく。	
		⑫ 生徒の進路希望について、理解している保護者が６０％以上いる。	・年２回以上の保護者面談や進路講演会を通じて進路選択について共に考え、質問に丁寧に対応する。	A	A	A	○生徒の進路希望について保護者面談等を通じて確認し、生徒の支援の仕方について共通理解を図った。また、その内容を進路講演会、学校説明会（進路ガイダンス）などへの講演内容に反映させた。次年度も継続していく。	
	11 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬ 在校生の就業率が５０％以上である。(アルバイトを含む)	・個々の生徒の希望に沿った就職・進路情報を提供して勤労意欲を高め、職業適性についてじっくりと考えられるよう指導する ・雇用主と連携して、協力関係を保つ。	A		A	就職・進路学習を進めるとともに社会との関係を構築するため、可能な範囲で就労体験（アルバイト等）を積極的に勧めた。昨年に続き、低学年のうちから積極的に就業する生徒が増えた。さらに大半が不登校経験者であることに留意しながらも、社会と積極的に関われるよう指導を進める。就業率 R4：71%　R5：63%	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭ オープンスクールや中学校訪問による学校説明、案内等を年３回以上行う。	・オープンスクールや各中学校への訪問を通して、本校定時制の良さをアピールする。	A		A	○中学校教員や保護者などに定時制の魅力をピーアールし、理解を得るとともに、在籍生徒の学校での様子を伝えることなどを通して、本校定時制への信頼を得るよう努めた。今後も積極的に実施していく。	
		⑮ 家庭や地域社会に情報を発信するため「定時制便り」を年６回以上発行する。	・「定時制便り」を通して保護者や地域、雇用主等に、学校の状況や生徒の活動について理解を深めてもらう。	A		A	○学校行事に限らず、学習活動の成果など、様々な面から生徒の活躍が一目でわかるよう、写真を多く掲載した紙面構成にした。昨年度と同様、タイムリーに「定時制便り」を発行し、HPにも掲載した結果、生徒保護者からの反応も格段に良くなったので、この状況を維持していく。	
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	13 ＩＣＴを活用した指導を行っていますか。	⑯ ＩＣＴ機器を活用した授業を行った教員が100%である。	・各自が効果的な使用法を研究し、授業公開や校内研修等の機会を利用して成果を共有する。	A	B	A	○授業では、それぞれの教員が様々なＩＣＴ機器を使用しているが、生徒が一人一台端末を活用しながらの授業についても実施するよう促した。授業でのクロームブックの利用については、まだ教員間で温度差があるので、今後も活用を積極的に進めていく。	
	14 ＩＣＴを活用した業務改善を行っていますか。	⑰ ＩＣＴ機器を活用して成績処理を行った教員が100%である。	・全職員がスクールネットを使用して成績処理や指導要録・通知表等の作成をすることで、業務の効率化を進める。	A		A	○全職員がスクールネットを使用して成績処理や通知表・調査書等の作成をしており、各自が利用方法についてさらに熟達できるようした。次年度についても、各自が利用方法についてさらに熟達できるように進めていく。	
※各学校で必要に応じて評価対象を加える								